評価分科会総合評価

研究課題名：全球大気データ同化の高度化に関する研究

評価分科会（予報分野）

分科会長：田中正之

委員：岩崎俊樹、佐藤 薫、藤吉康志

評価年月日：平成23年2月7日（総合評価確定日）

1. 総合評価

- (1) 採用の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

データ同化は、観測データと数値モデルを利用し、大気の状態を推定する基幹技術である。本研究は、時間空間的に一様ではない多様な観測データを最大限取り込んだ高精度の客観解析データの作成をという難度の高い目標を掲げた極めて意欲的なものである。気象研究所がこのような重要研究に本格的に着手することは高く評価される。本研究の成果はわが国の数値予報の精度向上に大きく寄与するとともに、衛星観測計画の立案にも大きく貢献するものと期待される。学術的な意義も大きく、気象学のみならず、広く地球科学全般の進歩にも貢献することも期待される。

限られた人数での計画であるが、内外の機関との協力体勢も含め、研究体制も十分と評価できる。一方、計画されている研究項目が多く、期間内に終了するための工夫が必要である。研究スケジュールについて具体的説明に不十分な点があり、適切な優先順位を付したうえで着実に実施することが重要であるとの指摘があることに留意すべきである。

研究にあたっては、それぞれの観測データやデータ同化手法の開発がどのような予報の精度向上に役立つのかという明確な見通しを持って、効率的に開発を進めることが望まれる。また、観測システム実験や観測システムシミュレーション実験などは、衛星観測などの開発部門と強く連携し、観測システムの最適化にも貢献されることを希望する。この研究はある期間行えば終了というものではないことに留意し、常に先々の展望を持って研究を推進すべきである。

また、外部評価は平成24年度も実施すべきであるという指摘があったことに留意し、関係者に進捗状況が十分に伝わるような研究運営にも配慮されたい。